

# デジタルビジネス時代に 重要となるAPI活用のポイント

株式会社オージス総研

サービス事業本部 クラウドインテグレーションサービス部

齋藤 伸也 (Saito\_Shinya@ogis-ri.co.jp)

## □ デジタルビジネス = 既存事業 × IT (クラウド、IoT、APIなど)

配車サービス × ホテル・旅行代理店

- ホテルの場所に迅速な配車サービス
- 観光地に通じた運転手を手配

会計サービス × 銀行

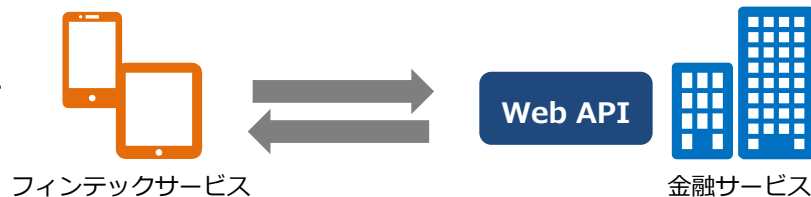
- リアルタイムの会計情報で与信・融資
- すぐれた会計サービスのUIから企業間の支払い

損害保険 × 自動車

- 安全な運転に応じて保険料を変動
- 事故時の迅速なフォロー

- これら新しいビジネスの背後には「API」を通じたサービス、データの連携がある
- より「オープン」な形で、より「ビジネス」に直結するAPIが公開され、APIを通じてビジネスを行う「APIエコノミー」の世界が広がってきている

- フィンテック = 金融 × ITテクノロジー
- APIによって、新しい金融サービスを提供するITベンチャー企業と既存の金融企業を結びつける



- 進む環境整備
  - 全銀協に「オープンAPIのあり方に関する検討会」を設置（2016.10.21）
  - 経済産業省：「クレジットカードデータ利用に係るAPI連携に関する検討会」を開催（2017.3.31）
- 金融機関の取り組み
  - メガバンク各行、ハッカソンを開催
    - 三菱UFJフィナンシャル・グループ：「FinTech Challenge」（2016.3.12）
    - みずほフィナンシャルグループ：「Mizuho.hack」（2016.5.12）
    - 三井住友銀行：「ミライハッカソン」）（2016.9.17）
  - メガバンクが「更新系API」を提供開始、マネーフォワードが経費精算振込で連携（2017.3.31）

- ❑ IoT(Internet of things)では標準的な技術であるWeb APIはモノとクラウドを繋ぐ役割
- ❑ 自社製品（H/W、スマホアプリ）の付加価値向上 - 製品のサービス化
  - 製造業など：製品(センサー)が生み出すデータをもとに付加価値サービスを提供
  - 社外のサービスやデバイスとの情報交換により、顧客に対して新しいサービス体験を提供
- ❑ API活用例
  - 装置の故障に365日24時間いつでも即座に対応するアフターサービス
  - エネファームIoT

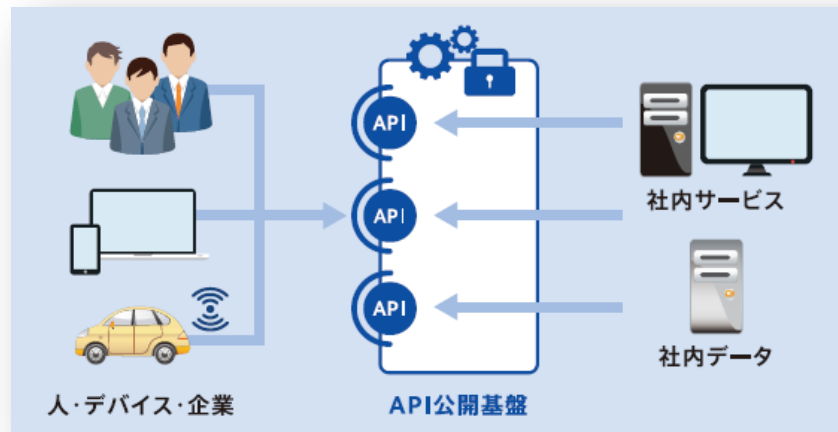


[出所]  
[http://media.amazonwebservices.com/jp/summit2016/1B\\_02.pdf](http://media.amazonwebservices.com/jp/summit2016/1B_02.pdf)

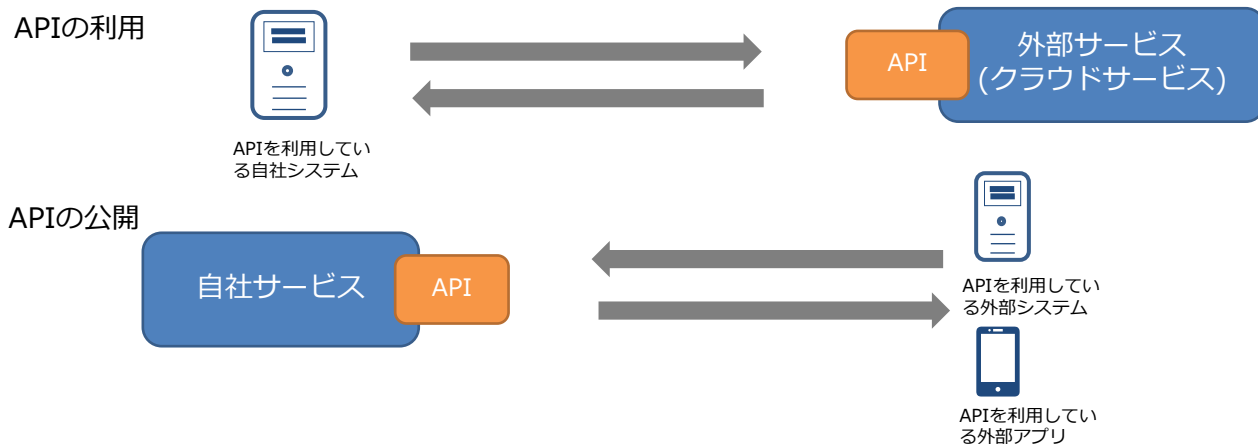
## □ デジタルビジネスを実現する「APIエコノミー」

APIエコノミーとは、

企業内の価値あるデータ・サービスをAPIとして提供（API公開）することで企業外の多様なシステム・サービスと繋がり、新しいビジネス価値を創出すること

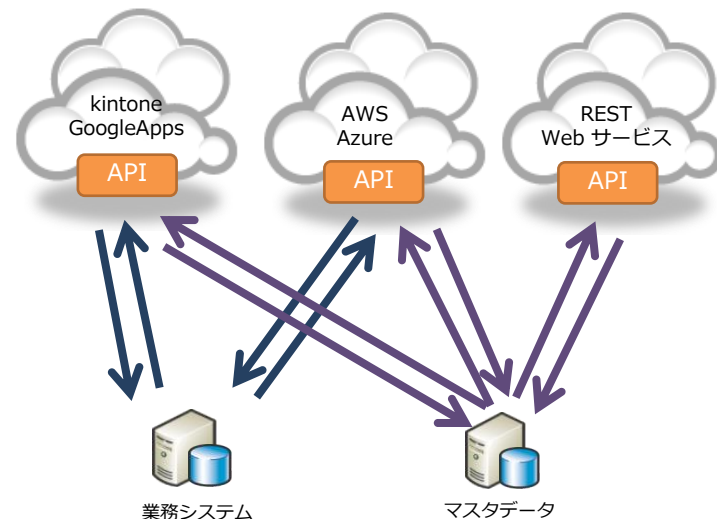


- APIの活用は**利用**と**公開**の2つの側面がある
- APIの利用は、公開されている「APIをいかに使うか」がポイントになる。
- APIの公開は、自らのデータやサービスをAPIとして公開し、その「APIをいかにして使ってもらうか」がポイントになる。

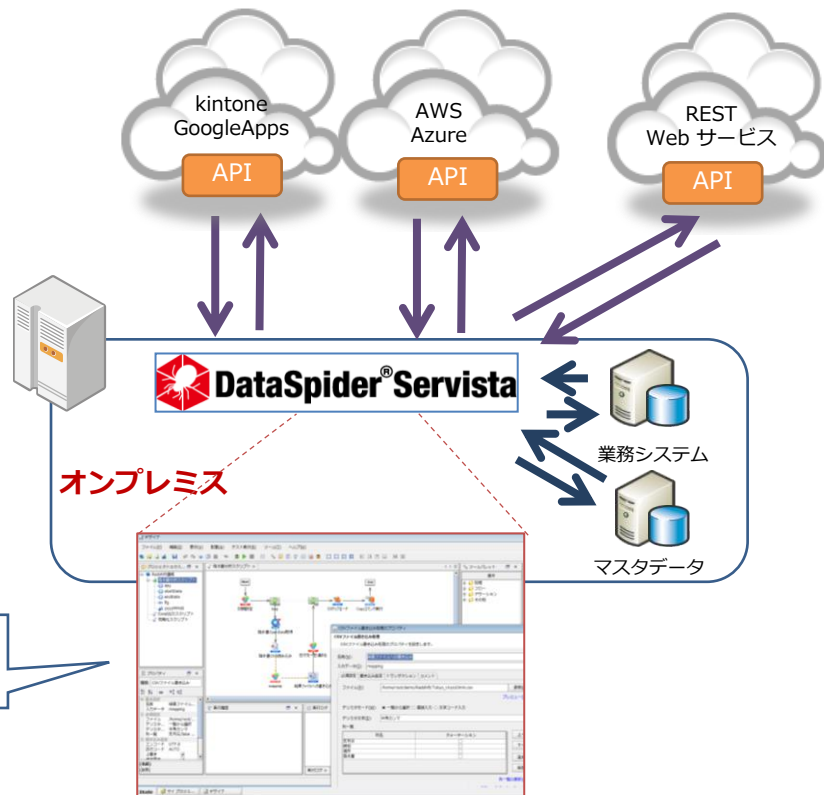


## □ 利用するAPIが増えるにつれ、維持管理コストが増大

- APIを公開しているサービスごとに、データ形式(XML・JSON)やセキュリティトークンの扱いが異なる
- データのマッピングと変更
- APIが変わるたびに変更が必要
- 可視化されていない(全体像が見えない)



- APIを呼び出す連携をノンコーディングで実現
- 様々なクラウドサービス、SaaSアダプターにより、簡単にAPI利用が実現
  - Salesforce、kintone、GoogleApps
  - AWS、Azure
  - REST API
- 定期的な実行、リアルタイム連携など、様々なAPIのユースケースに対応





- APIに求められるセキュリティの確保
  - APIの公開範囲に応じたセキュリティモデル
- API利用者に分かりやすく使いやすいAPIの構築
  - 自社のサービスやデータをAPI利用者に使いやすいAPIとして公開する
- 効率的なAPI管理
  - 安定的な運用、APIバージョンアップの実施

- 
- 「APIの設計、実装」「運用・監視の設計」など技術面でのサポートが欲しい
  - 最初の取り組みとして最小構成でスタートしたい

- API公開に必要なセキュリティを確保したい
- 効率的な管理・運用を行いたい

- オージス総研のクラウドとAPI開発・運用の知見を集めたサービスで、「短期間でAPI構築」・「信頼性の高いAPIインフラ」を提供します

API開発のノウハウを活かし  
API導入を支援

## 素早いAPI公開、スモールスタートが可能

### API公開基盤の特徴

#### 主な機能

- ・REST/JSON形式でのAPI公開
- ・APIのインタラクティブな仕様書作成
- ・API利用者のID登録、管理（アクセス制御）

ビジネス規模拡大に応じたスケーリング

### 標準サービス

- ・API公開基盤上でAPI作成
- ・プラットフォームの障害検知、一次対応
- ・API利用状況のレポートニング、改善提案

API作成

障害検知  
一次対応

レポートニング  
改善提案

### オプションサービス

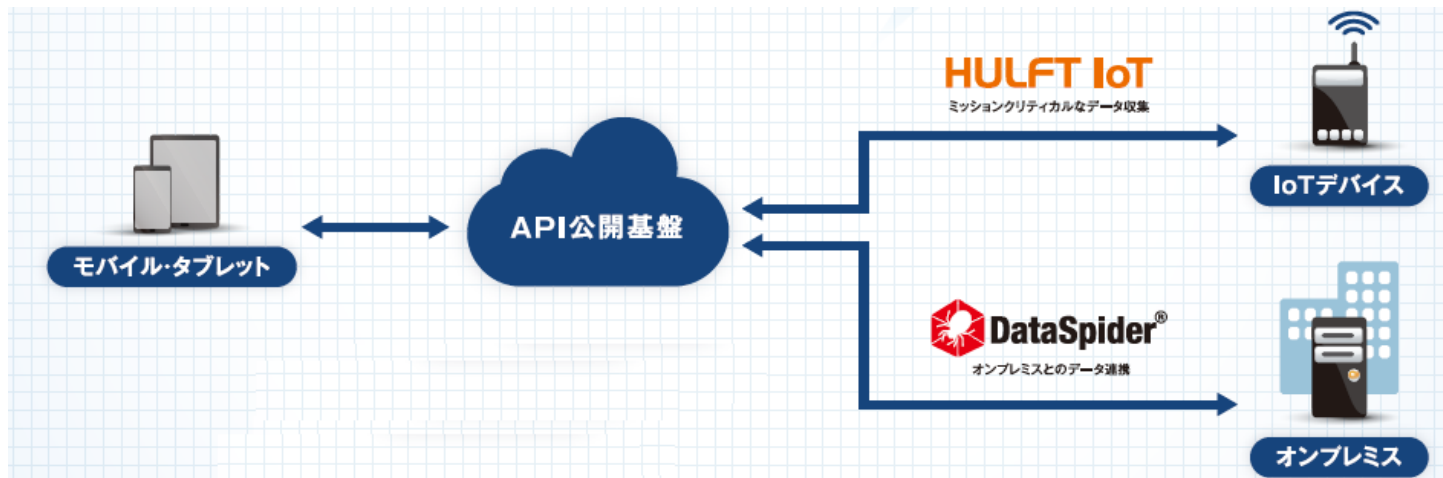
- ・API導入コンサルティング
- ・社内環境(オンプレミス)のDBとAPI公開基盤とのデータ連携
- ・複雑な処理をするAPIの機能実装 など

コンサルティング

データ連携

機能実装

- IoTで集めたデータとオンプレミスのデータを組み合わせ新しい価値を生むデータを作成し、そのデータをAPI公開によって様々なシステムから利用可能にする。



- デジタルビジネスの背景にはAPIによる
- APIの活用には「利用」と「公開」の2つの側面がある
- DataSpider を使うことでAPI利用を効率的に実現できる
- API公開支援ソリューションは短期間でAPI公開を実現できる
- HLUFT IoT とAPI公開を組み合わせるとIoTデータを効果的に利用することができる